

# 米国 ～利上げ環境が整うのは年末～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治 (かつらはた せいじ)



## 利上げ準備が進むも確信は持てず

FRBは、4月28、29日のFOMCで、政策金利であるFFレート誘導目標を0～0.25%に据え置き、償還債券の再投資の継続を決定した。また、3月の声明文にあった次回FOMCで利上げの可能性が低いとした文言(「委員会は4月のFOMCでFFレートの誘導目標レンジを引き上げる可能性は低いと引き続き判断する」)を削除し、6月以降のFOMCで毎回利上げを検討する方針を維持した。

もっとも、足下の経済成長の大幅な減速を受けて、FRBの主要なメンバーは、利上げの条件であるインフレ率が中期的に2%の目標に向かうとの合理的な確信をいつ頃持つことができるようになるか、以前ほど自信が持てなくなっているとみられる。

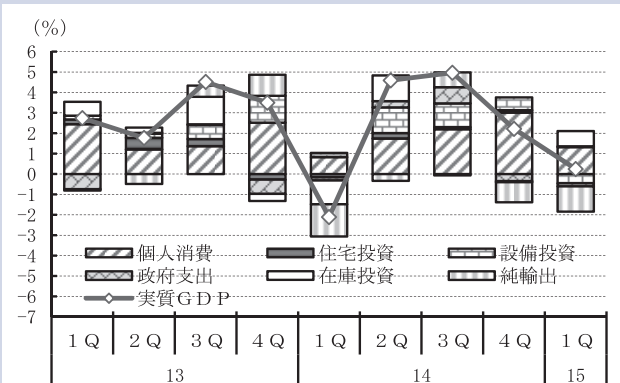
## 経済成長加速は年後半

15年1-3月期の実質GDP成長率(速報)は、悪天候、西海岸の港湾スト、ドル高等の影響を受け、前期比年率+0.2%(10-12月期同+2.2%)とさらに鈍化した。個人消費、住宅投資が減速、設備投資が減少に転じたほか、純輸出のマイナス寄与が拡大した。今後マイナス成長に下方修正される可能性もある。

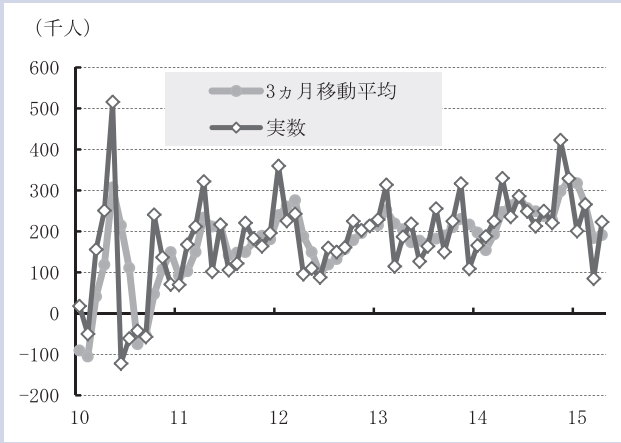
4-6月期には、冬の嵐などの悪天候や、西海岸の港湾ストなど一時的な要因の剥落により、米国の経済成長率は伸びが高まることが見込まれる。4月の企業景況感は改善し、景気減速に歯止めがかかったことを示している。ただし、4月の非農業部門雇用者数は、天候の改善等により前月差+22.3万人(前月同+8.5万人)と加速したものの、2、3月合計で3.9万人下方修正された。これを考慮すると、市場予想よりも回復力は鈍いものにとどまっている。また、4月の新車販売台数が前月比で減少したように、個人消費の拡大が緩慢なものとなることが予想されるほか、鉱業部門を中心とした設備投資の低迷、在庫投資の抑制、輸出の伸び悩みなどにより、4-6月期のGDP成長率は緩やかな伸びにとどまると見込まれる。

今後も、インフレ率や賃金上昇率が抑制された状況が続くと予想されるなかで、経済成長の加速が確認できるのは、年後半になると見込まれる。年後半には、鉱業部門での投資回復や世界経済の回復等を背景に経済成長が加速するとみられ、FRBは12月ごろにインフレ率が2%の目標に向かうと合理的な確信を持ち、利上げを開始すると予想する。

資料1 実質GDPの項目別寄与度(前期比年率)



資料2 米国非農業部門雇用者数(前月差)



内外経済ウォッチ